

兵庫県立大学附属中高一貫教育校 設置基本構想

平成17年3月

兵庫県

目 次

	ページ	
はじめに	1	
兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る背景		
1 我が国の教育の課題とその方向性	2	
2 科学技術を担う人材育成の必要性	2	
3 国際社会に生きる日本人の育成の必要性	3	
兵庫県立大学附属高等学校の現況		
1 兵庫県立大学附属高等学校を取り巻く環境	4	
(1) 兵庫県立大学附属高等学校の開設		
(2) 中高一貫教育の制度化		
(3) 兵庫県立大学の開学		
(4) 播磨科学公園都市に立地する研究施設等		
2 附属高校の取組	5	
(1) 概要		
(2) 高大一貫教育への取組		
3 播磨科学公園都市の成熟化への期待	6	
4 地域からの要望	7	
兵庫県立大学附属中高一貫教育校設置の必要性		8
兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本的な考え方		
1 兵庫県立大学附属中高一貫教育校の基本理念	9	
2 中高一貫教育校の設置形態	9	
3 設置場所	10	
4 設置時期	10	
5 通学区域	11	
おわりに	12	

はじめに

新しい世紀に入り5年目、世界では今、激動と混乱の中で新しい国際秩序の構築に向けて、懸命の取組が進み、しかも、大津波の惨禍に見舞われたインド洋沿岸諸国の復興支援や地球温暖化防止のための世界的取組など、21世紀の人類社会の共通の課題への協力が問われている。今世紀は、20世紀の効率や画一、標準ではなく、選択や多様、個性を基本理念として、戦後の社会が築き上げてきた物質的豊かさの上に、一人ひとりが自律的な個として自分らしさを確立することを基本に、自然の調和、他者との共生の中で生活の質的向上を目指す社会づくりを進めていかなければならない。また、今世紀は「知の世紀」ともいわれ、これまで目覚ましい進歩を遂げてきた科学技術が新たな知を生み出し、国民の生活の向上等とともに、国際的な貢献を果たすことに大きな期待が寄せられており、科学技術創造立国を目指す我が国にとって、「知」の創造により、世界に貢献し、その担い手となる研究にかかわる人材の養成・確保が極めて重要であるといわれている。

本県では、平成6年4月に兵庫県立姫路工業大学附属高等学校を設置し、現在に至るまで科学技術における学術研究の後継者や国際感覚豊かな創造性溢れる人材をねらいとした教育を展開し、文部科学省から平成14年度にスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けるなど、大きな成果をあげてきた。また、今年度、兵庫県立大学の開学に伴い、校名も兵庫県立大学附属高等学校と改め、更なる飛躍への期待が寄せられているところである。

一方、学校教育法等の改正により「中高一貫教育」が新たに制度化され、これまでの中学校と高等学校に加えて、中高一貫教育校の選択が可能となり、中等教育のより一層の多様化を図るための新たな展開を行う制度の整備も図られてきた。

本県においてはこのような状況を踏まえ、兵庫県立大学附属高等学校のこれまでの成果を生かすとともに、中学校段階からの計画的・継続的な教育指導を通して、生徒の個性の伸長を図り、優れた才能を見いだし、これまで以上に今日の社会に求められる人材を育成することが必要であるとの認識の下、平成16年10月、学識経験者、有識者、教育関係者、県議会関係者、PTA、地元関係者、県立大学教職員等からなる「兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本構想検討委員会」を設置し、基本構想の検討を行っていただいた。そして、先般、基本構想検討委員会からその検討結果について、報告を受けたところである。この報告を元に、県民や関係者から寄せられたご意見等も踏まえ、この度「兵庫県立大学附属中高一貫教育校設置基本構想」を策定することとした。

全国的に青少年の「科学技術離れ」、「理科離れ」が指摘されていることや、科学技術などの急速な発展に伴い、国際化が更に進展することが見込まれ、国においても初等中等教育の段階から様々な事業等が展開されているところである。本県においても、その一翼を担うとともに、播磨科学公園都市の成熟を図るためにも、兵庫県立大学をはじめ、播磨科学公園都市に立地している研究施設やそれらを取り巻く豊かな自然を活用し、全国初の公立大学附属の中高一貫教育校の設置に向けて精力的に取り組んでいくこととする。

兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る背景

1 我が国の教育の課題とその方向性

我が国の教育は、第二次世界大戦後、機会均等の理念を実現し、国民の教育水準を高め、その時々時代の要請に対応しつつ、人材の育成を通じて社会発展の原動力となってきた。しかし、教育の現状に目を向けると、教育に対する信頼が大きく揺らいでいる状況が見受けられる。すなわち、青少年が夢や目標を持ちにくくなり、規範意識や道徳心、自律心が低下し、いじめ、不登校、中途退学、学級崩壊なども依然として深刻で、青少年による凶悪犯罪の増加も懸念されている。家庭や地域においても心身の健全な成長を促す教育力が十分に発揮されず、豊かな人間関係を築くことも困難となっている。

また、学習意欲の低下が、初等中等教育段階から高等教育段階にまで及んでおり、特に、初等中等教育において、基礎的・基本的な知識・技能、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力などの「確かな学力」をしっかりと育成することが重要であるといわれている。

さらには、科学技術の急速な発展、経済のグローバル化、IT革命の進展など社会経済の変化が速くなり、これまでの初等中等教育から高等教育までの教育システム全体やこれに携わる関係者の意識が、時代や社会の進展に必ずしも十分に対応していないのではないかと指摘されている。

このため、平成15年3月20日、中央教育審議会が答申した「新しい時代にふさわしい教育基本法と教育振興基本計画の在り方について」では、日本の教育を根本から見直し、新しい時代にふさわしく再構築することを求めており、これからの教育は、自己実現を目指す自立した人間の育成、豊かな心と健やかな体を備えた人間の育成、「知」の世紀をリードする創造性に富んだ人間の育成、

新しい「公共」を創造し、21世紀の国家・社会の形成に主体的に参画する日本人の育成、日本の伝統・文化を基盤として国際社会を生きる教養ある日本人の育成、の5つの目標の実現に取り組み、「21世紀を切り拓く心豊かでたくましい日本人の育成」を目指すことが必要であると提言されている。

2 科学技術を担う人材育成の必要性

兵庫県立大学附属高等学校は、これまでその教育のねらいの一つとして「科学技術分野における人材の育成」を挙げてきた。21世紀は「知の世紀」といわれ、人間の知的活動の成果としての幅広い知識の創出と蓄積、そしてそれを活用するための英知が求められており、とりわけこれまで目覚ましい進歩を遂げてきた科学技術は、人類の生活と福祉や経済社会の発展に一層貢献し、世界の持続的な発展の牽引車になることが期待されている。そのための教育は、さらに重要性を増している。

また、生命倫理の問題や環境問題等、科学技術が人間と社会に与える影響は、今後更に広く深くなると予想され、科学技術が社会に与える影響を解析、評価するとともに、新しい科学技術の領域を拓いていく必要があり、自然科学のみならず、人文・社会科学を総合した人類の英知が強く求められている。

このように、科学技術への期待や新しい科学技術領域の開拓への期待が高まる一方で、我が国では、青少年の「科学技術離れ」、「理科離れ」が指摘されており、経済協力開発機構(OECD)や国際教育到達度評価学会(IEA)が2003年に実施した国際比較調査を見ると、科学的リテラシーは高いものの「希望の職業につくために理科で良い成績を取る」、「理科の勉強への積極性」、「理科の勉強に対する自信」について、「強くそう思う」と答えた割合は、国際的にも低い。この現状を踏まえ、初等中等教育においては、子ども自らが知的好奇心や探究心をはぐくみ、科学的な見方や考え方を育成するなど科学技術に関する学習の振興を図ることが、今強く求められている。

特に、本県では、全国に先駆け「創造的科学技術立県」を県政の重要課題として位置付け、平成10年3月には、「新・兵庫県科学技術大綱」を策定した。その中では、国際間・地域間競争が激しさを増すグローバル社会にあって、未来を拓く新しい産業を創出する科学技術は、地域の振興に不可欠であり、これに携わる研究者や技術者の育成が今後の本県の発展において極めて重要であると指摘されている。さらに、阪神・淡路大震災を経験し、国内外から支援を受けた本県としては、環境や防災など様々な分野で、技術やノウハウを世界に伝えて貢献していくことが期待されていることから、世界と地域をつなぐ人材の育成に積極的に取り組むことが必要であると認識している。

3 国際社会に生きる日本人の育成の必要性

兵庫県立大学附属高等学校は、もう一つの教育のねらいとして「国際感覚豊かな創造性溢れる人材の育成」を挙げている。これに関して、昨今の情勢に目を向けてみると、情報通信技術をはじめとする科学技術の飛躍的な発展などを背景とした、いわゆる、ヒト、モノ、カネ、情報の地球規模での自由な移動が急速なグローバル化をもたらしており、国際化は急速に進展してきている。しかし、一方で国家や地域間での争いはとどまることを知らず、民族、宗教の違いなどにより、必ずしもお互いの理解が十分に図られているとはいえず、深刻な問題も生じてきている。

このような中であって、日本人としての自覚とともに国際的な視野と経験を身に付け、我が国の歴史や文化、伝統などに対する理解を深め、広い視野を持って異文化を理解し、異なる習慣や文化を持った人々と共に、国際社会の中で主体的に生きていくことのできる人材を育成することが、これまで以上に極めて重要になってきている。

兵庫県立大学附属高等学校の現況

1 兵庫県立大学附属高等学校を取り巻く環境

(1) 兵庫県立大学附属高等学校の開設

本県では、平成6年4月、姫路工業大学の附属教育施設として兵庫県立姫路工業大学附属高等学校を設置し、その後、(3)に記載のとおり、平成16年4月、兵庫県立大学の開学に伴い、現在の校名に変更した。

兵庫県立大学附属高等学校（以下「附属高校」という。）においては、設置当初の理念を今日まで継承し、早い段階から大学教育に触れる機会を設け、生徒の学習意欲の喚起や学習目的の明確化、あるいは進路選択に役立たせるなど、高校・大学の一貫した教育課程により、高い学習効果を上げる教育を展開してきている。

(2) 中高一貫教育の制度化

附属高校が高大連携を推進する中で、国においては、中等教育の一層の多様化を推進し、生徒一人一人の個性をより重視した教育の実現を目指すものとして、学校教育法等の一部改正が行われ、平成11年4月、中高一貫教育が制度化された。

中高一貫教育の実施形態には、修業年限6年の学校として一体的に中高一貫教育を行うことができる中等教育学校、高校入試を行わず同一の設置者による中学校と高等学校を接続することが可能である併設型の中学校・高等学校、

既存の市町村立中学校と都道府県立高等学校が教育課程の編成や教員・生徒間交流などの面で連携が可能である連携型の中学校・高等学校がある。

中高一貫教育は、6年間の計画的・継続的な教育指導を通して生徒の個性を伸長したり、優れた才能を見いだしたりすることや、異年齢集団での活動を通して社会性や豊かな人間性を育成することを可能とする。また、中高一貫教育として特色ある教育課程を編成することができるよう、中学校段階での選択教科の授業時数を一般の中学校より多く設定することや、中等教育学校や併設型の中学校・高等学校において、中学校段階と高等学校段階の指導内容の一部を入れ替えて指導することなどが可能となる教育課程の特例が設けられている。

なお、受験競争の低年齢化を招くことのないよう、公立学校における入学者の決定にあたっては、学力検査を行わないものとするとしている。

(3) 兵庫県立大学の開学

平成16年4月、神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学の県立3大学の統合により、兵庫県立大学を開学した。

兵庫県立大学は、世界に開かれた国際都市として日本の近代化を先導してきた神戸の地に大学本部を置き、豊かで多様な自然に恵まれた兵庫県内に6つのキャンパスを展開する6学部、8大学院研究科、4附置研究所や各種の附属センター等からなる総合大学である。「融合された知の拠点」として地域の発展と世界・人類の幸せに貢献することをその基本的な理念としており、総合大学の特長と、兵庫が持つ伝統的な先進性や国際性を生かし、人文・社会科学系と自然科学系との融合を重視した教育を展開して、地域社会や国際社会の発展に貢献し得る創造力を持つ、人間性豊かな人材の育成を目指しており、附属高校との連携の在り方についても新たな取組が求められている。

(4) 播磨科学公園都市に立地する研究施設等

附属高校が設置されている播磨科学公園都市は、新宮町、上郡町、三日月町の3町にまたがっており、附属高校や兵庫県立大学理学部のほか、世界最高性能の大型放射光施設「SPRING-8」、兵庫県立大学の附属施設である中型放射光施設「ニュースバル」、播磨科学公園都市に立地する企業や研究施設などを利用する県下中小企業などの研究開発を支援する「兵庫県立先端科学技術支援センター」や、播磨科学公園都市の住民のために、就学指定の学校として、播磨高原広域事務組合立播磨高原東小学校及び同播磨高原東中学校が設置されている。

なお、播磨高原広域事務組合は、上記3町からなる地方自治法上の一部事務組合であるが、この小学校と中学校の管理運営については、新宮町と上郡町の2町の事務とされている。

2 附属高校の取組

(1) 概要

附属高校は、設置以来、校訓「創進」を掲げ、「兵庫県立大学との緊密な連携のもとに、播磨科学公園都市の優れた教育研究環境を活用し、科学技術における学術研究の後継者の育成や、国際感覚豊かな創造性溢れる人材の育成をねらいとした教育を行う」ことを基本理念としている。

特に、学校経営の特色の1つとして、高大一貫教育の実現を図るため、高校と大学の時期を一貫した教育機関としてとらえ、高大連携教育プログラムの実践など兵庫県立大学との連携を基調とした学校経営を行うこととしており、教育目標として、次の4項目を掲げている。

自ら考え、自ら学び、個性を伸ばす。

自然科学を中心に、人文・社会科学も広く学び、科学への関心を高める。

国際感覚を養い、国際社会に貢献できる人材を育成する。

科学者や大学生と交流し、高い理想を持つところ豊かな人間を育成する。

この教育目標の下、特色ある教育課程を編成し、生徒の個性を生かした主体的な学びを促すことにより、基礎的・基本的な知識、能力、態度の育成を図るとともに、多様で高度な学習機会を提供する高大連携教育プログラムの実践を通して、創造力豊かな生徒の育成を図るなど、時代の変化に的確に対応し、多様なニーズを持つ生徒に対して、魅力ある教育活動を推進してきている。

(2) 高大一貫教育への取組

特別推薦入学制度

附属高校においては、高校と大学を一連の教育課程としてとらえ、生徒の個性を伸ばすための教育を実践する趣旨から、兵庫県立大学工学部、理学部、環境人間学部への特別推薦入学制度を設けており、3学部合わせて最大75名の附属高校の生徒がこの制度を活用できる。

高大連携教育プログラムの実践

附属高校においては、総合科学科の専門科目及び課題研究等を中心に、兵庫県立大学を初めとした大学教員を非常勤講師とし、附属高校の教員とのチームティーチングを行っている。

文部科学省スーパーサイエンスハイスクールの指定

附属高校においては、平成14年度から3年間、文部科学省からスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けている。事業初年度に当たる平成14年度には、全国で26校がこの指定を受け、附属高校もその1校に選ばれた。

附属高校においては、教育課程「テクノプロジェクト21」の研究開発を研究課題とし、学校設定教科「スーパーサイエンス」を設置し、各科目における指導内容・指導方法の研究を行うとともに、兵庫県立大学との協力体制による高大連携・合同授業の実施や、国内外の大学・研究機関の研究者による講演、あるいは自然科学部・コンピュータ部の活動の活性化を図り、自然科学等への関心の高まりや、理数教育における高校から大学へのスムーズな接続に関する研究に取り組んでいる。

3 播磨科学公園都市の成熟化への期待

兵庫県立大学附属中高一貫教育校を設置しようとしている播磨科学公園都市は、西播磨テクノポリス地域の拠点として、豊かな自然環境の中で21世紀の科学技術の発展を支える学術研究機能と優れた先端技術産業を中心に、快適な居住環境や余暇機能を備えた「人と自然と科学が調和する高次元機能都市」を目指している。平成9年度には、世界最高性能の大型放射光施設SPring-8の供用開始に併せて、同都

市の本格的な「まちびらき」を行うなど、これまで都市整備が進められ、兵庫県立大学においても、これまで、理学部、高度産業科学技術研究所、附属高校など、播磨科学公園都市にふさわしい教育研究機関を設置してきたところである。こうした中で、特に地元自治体からは、既存の学校施設を有効活用した新たな教育の展開により、その成熟化の促進を図ることが強く求められている。

兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置は、本県における新たな特色ある教育の展開につながるとともに、播磨科学公園都市の成熟化に寄与するものと大いに期待できる。

4 地域からの要望

地元自治体や地元自治会からは、県に対して教育環境の整備に関する要望が出されており、特に兵庫県立大学及び附属高校を核にした一貫教育の実施や、地元の学校施設等を活用した兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置などの新たな教育の展開への期待が大きい。

兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置の必要性

これまで述べた「 兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る背景」及び「 兵庫県立大学附属高等学校の現況」を踏まえ、兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置の必要性をまとめると次のとおりである。

今世紀は「知の世紀」といわれ、科学技術創造立国を目指す我が国にとって、その担い手となる研究にかかわる人材を養成・確保することが極めて重要である。

その一方で、全国的に青少年の「科学技術離れ」、「理科離れ」が進み、学習意欲の低下が深刻化しており、こういった問題の解決に向けて国を挙げた取組が行われている。また、科学技術などの急速な発展に伴い、国際化が更に進展することが見込まれることから、初等中等教育の段階において、科学技術における学術研究の後継者や、国際感覚豊かな創造性溢れる人材を育成するための特色ある教育を行うことが、今まさに求められている。

附属高校は、平成15年度に創立10周年を迎え、その間、自然科学を中心とした教育の発展に大きく寄与し、文部科学省から平成14年度にスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けるなど、先進的な取組により大きな成果を上げてきたところである。これに加え、平成16年度に県立3大学（神戸商科大学、姫路工業大学、兵庫県立看護大学）の統合により、新たに兵庫県立大学を設置したところであり、附属高校についても、高大連携に係る教育内容等のより一層の充実や、中学校段階との接続の下での自然科学を中心とした教育の発展など、今後新たな展開を図ることが望まれている。

6年間の計画的・継続的な教育指導が展開できるなど、多くの特長を有する中高一貫教育制度への期待が高まっている。

附属高校を設置している播磨科学公園都市においては、これまで西播磨地域の拠点として都市整備が進められてきたが、更なる成熟化が求められており、特に地元自治体からは、播磨科学公園都市内の学校施設を有効活用した新たな教育の展開により、成熟化の促進を図ることが強く求められている。

これらの状況を踏まえ、本県では、附属高校設置以来、今日まで取り組んできた教育の成果を生かしながら、中高一貫教育制度を導入し、今日の社会に求められる人材を育成することが新たな展開として望まれるとの認識の下、「兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本的な考え方」を次のとおり取りまとめた。

兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本的な考え方

1 兵庫県立大学附属中高一貫教育校の基本理念

兵庫県立大学との緊密な連携の下に、播磨科学公園都市の恵まれた教育研究環境を活用し、生徒一人一人の個性の伸長を図るとともに、優れた才能を見だし、科学技術における学術研究の後継者の育成や、国際感覚豊かな創造性溢れる人材の育成をねらいとした教育を展開し、こころ豊かな人づくりの推進に寄与する。

<考え方>

基本理念については、次の点を考慮した。

科学技術創造立国を目指す我が国の担い手となる人材の養成・確保の重要性が認識される一方で、「科学技術離れ」、「理科離れ」が進み、学習意欲の低下が深刻化していることや、科学技術の急速な発展に伴い、国際化が更に進展することが見込まれることから、科学技術における学術研究の後継者や、国際感覚豊かな創造性溢れる人材の育成をねらいとすることを明記する。

中高一貫教育校の実現により、継続性を確保しつつ生徒一人一人の個性を伸長し、優れた才能を見いだすための教育を行うことを明記する。

これまでの附属高校の成果を踏まえた新たな教育の展開とともに、こころ豊かな人づくりを推進する本県の独自性を明記する。

地元「播磨科学公園都市」に設置している恵まれた教育研究環境を活用することを明記する。

2 中高一貫教育校の設置形態

現在の附属高校と接続する附属中学校を新たに設置し併設型の中高一貫教育校とする。

<考え方>

次の理由により、併設型の中高一貫教育校を設置することが適当である。

中等教育学校に準じて、6年間一体的に中高一貫教育が行えるとともに、現在の附属高校を併設型高等学校としてそのまま残すことができる。

併設型高等学校の学級数にかかわらず、併設型中学校の学級数を設定できることから、高等学校段階から入学を希望する生徒のニーズにこたえられ、周辺地域の就学指定中学校の入学者数に配慮することもできる。

地元の教育施設を活用した中高一貫教育校の設置を図ることが可能である。

3 設置場所

現在の附属高校の施設と播磨高原広域事務組合立播磨高原東中学校の施設を活用し、それぞれの所在地を設置場所とする方向で検討を進める。

<考え方>

次の理由により、設置場所を現在の附属高校の施設と播磨高原広域事務組合立播磨高原東中学校の施設の所在地とする方向で検討を進める。

既存の社会資本を活用しつつ、効果的な中高一貫教育を行うことについて、地元から強い要望がある。この要望を踏まえ、現在の附属高校の施設を活用することはもとより、1学年2学級規模の校舎を有しながら、現実には1学年1学級でかつ1学級当たり20名前後の在籍者数にとどまっている播磨高原東中学校の施設を有効活用することが望まれることから、中高一貫教育校の設置場所を現在の附属高校の施設と播磨高原広域事務組合立播磨高原東中学校の施設の所在地とすることが適当である。

また、現在の附属高校と新たに設置される附属中学校は、別敷地に立地し、約2kmの距離を有するが、この間にある兵庫県立大学理学部とあわせて、中学校・高等学校・大学を「学園エリア」とみなし、スクールバス等の運行により各施設間の移動の負担を軽減させる配慮が必要である。

なお、播磨高原東中学校の施設を活用した場合、現在の就学指定中学校の取扱については、設置者である播磨高原広域事務組合が決定することとなるが、県としては、まちづくりの成熟化に配慮しつつ、播磨高原東中学校の存続を含め、構成団体である新宮町、上郡町や地元住民等の意向を十分踏まえ、同組合と調整することとする。

4 設置時期

平成19年4月の開校を目指すこととする。

<考え方>

次の理由により、設置時期について、平成19年4月の開校を目指すこととする。

設置時期については、基本構想及び基本計画の策定、県民への周知、地元自治

体等との調整等一定の期間が必要であることを勘案しなければならない。また、現在の播磨高原東中学校の在籍生徒が同校入学前に中高一貫教育校の設置について知らされていないことを考慮すると、少なくとも平成16年度入学生徒が、同校を卒業する平成18年度末までは、播磨高原東中学校を現在の位置に存続させることが適切であると考えられることから、附属中学校の設置時期について、平成19年4月の開校を目指すこととする。

なお、次の点について、留意する。

平成17年度以降に播磨高原東中学校へ入学する児童とその保護者及び地域住民に対して、播磨高原東中学校の施設を県に移管するとともに、この施設を活用して新たに附属中学校を設置することについて、十分な説明を行う。

播磨高原東中学校の平成17・18年度入学生の取扱いについては、同校の設置者である播磨高原広域事務組合等と県による慎重な協議を別途行い、最も妥当な措置を講じる。

5 通学区域

県下全域とする。ただし、附属中学校の生徒については、「保護者の元から通学可能である」ことを指導事項とする。

<考え方>

次の理由により、通学区域を県下全域とするとともに、上記の指導事項を付することとする。

現在、附属高校は、総合科学科という県下唯一の特色学科を設置しており、この特色ある学校への通学が、どの地域からでも可能となるよう、通学区域を県下全域としており、附属中学校の通学区域も同様とする。

ただし、家庭教育は、すべての教育の出発点といわれ、中学校段階においては、基本的な生活習慣や倫理観等を育成する上で不可欠であると考えられる。このことから、学校・家庭・地域の連携を踏まえた教育が望まれ、附属中学校の生徒については、保護者の元から併設型の中学校への通学が可能であることを指導事項として明確に示すこととする。

なお、通学区域の設定等にあたっては、周辺の中学校への影響についても、十分配慮する。

お わ り に

本県では、平成17年2月17日に、兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本構想検討委員会からの報告を受けて以来、播磨高原広域事務組合を構成する新宮町、上郡町など地元自治体や地元住民等の意向を十分踏まえ、「兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に係る基本構想」を取りまとめた。

今後は、この基本構想を元に、来年度、基本計画の策定を進め、播磨科学公園都市にふさわしい兵庫県立大学附属中高一貫教育校の設置に向けて検討を進めていく。

兵庫県立大学附属中高一貫教育校
設置基本構想

平成 17 年 3 月

兵庫県企画管理部教育・情報局大学課
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5 丁目 10- 1
電話 078(341)7711 (内線 2524)